

漆喰^{しっくい}と暮らそう

SHIKKUI LIFESTYLE MAGAZINE

漆喰の底力

特集

土蔵再生

漆喰うま〜くヌレールDIYレポート

はじめてのDIY

漆喰散歩 -特別編-

鉄と漆喰のマリアージュ 株式会社 杉山製作所

.... and more

vol.5

FEBRUARY 2025

「漆喰と暮らそう」は、漆喰大好き!な日本プラスター株式会社のコミュニケーション誌です。

Best Walls, Best Life

いっくいと共に

塗り壁一途に96年

おかげさまで、弊社・日本プラスターはこの2月6日、創立96年を迎えます。この96年間一貫して、漆喰・モルタルはじめ天然素材由来の無機系塗り壁製品のみを専業で製造・販売し続けてまいりました。年月を経て現在は、業務用・DIY用の漆喰事業規模が20年以上にわたり拡大し続けており、漆喰事業が弊社の中核となっております。

漆喰うま〜くヌレールに代表される弊社漆喰DIY製品は年々需要が拡大しており、一般の方々から漆喰DIYがご自宅やお店の新築・改修から空き家・古民家改修にまで広がり、日本在住の外国人の皆様にも積極的に施工いただくようになりました。

伝統的な平滑仕上げにこだわった漆喰うま〜くヌレールPROをDIY市場にお届けできたのも、長年研究に取り組んできた弊社にとりましては、昨年の印象的な出来事となりました。

一方、弊社漆喰工事は昨年、新築・改修合計で年間200棟の受注を越えました。リビングやダイニング・玄関といった家の中心にほぼ採用され、首都圏はじめ日本全国で工事を行っております。また、この「漆喰と暮らそう」をご覧になられた皆様や東京上野のショールームにお越しいただいたお施主様より、直接漆喰工事を承る機会が増えたのも新たな動きです。今号で紹介している築150年の土蔵改修も、そのひとつでございます。

3つの技術力

社内的には、3つの技術力が昨年大きくスケールアップいたしました。3つの技術力の1つ「研究開発力」では昨秋、技術部若手社員が漆喰研究で博士課程を修了しました。かたや、漆喰はじめ塗り壁の研究開発に共感したプロフェッショナルの技術者が栃木に移住して入社し、研究開発力が一段と充実したことは今後の大きな力になると思います。

おかげさまで 創立96年

昨年2月、漆喰うま〜くヌレール専用の季刊誌『ずっと、もっと、しっくい』と漆喰工事専用の季刊誌『漆喰スタイル』を統合し、この『漆喰と暮らそう』を創刊いたしました。それから一年、おかげさまで発刊2年目を迎えることができました。改めまして日頃より『漆喰と暮らそう』をお読みいただき、心より感謝を申し上げます。



2つめは「左官技術力」です。年間通じて、漆喰工事が日々5〜6棟同時進行している会社は、恐らく他にないと思います。開設より3年の弊社しっくい左官学校『しっくい学舎』では新卒3期生が卒業し、いずれも国家試験を取得して漆喰工事に日々懸命に取り組んでくれております。彼らの献身的な仕事ぶり、成長進化は目を見張るものがございます。

3つめは「生産技術力」です。建設から15年経過した弊社第一工場は今年プラントの大規模改修を実施し、昨年より格段と強化された品質管理力、クラフトマンシップ向上に弾みをつけてまいります。また、今後一層の需要拡大に備え、新たな生産工場の計画に入ります。

以上の3つの技術力の拡充・融合こそが、美しく心地よい漆喰空間のご提供にとって生命線と認識しており、その強化に一層努めてまいります。

大阪支店

この夏には西日本の業容拡大に伴い、今年万博が開催される大阪府に支店を開設いたします。社員数も現在の61名から今年70名を越え、お客様のご要望に対し、よりきめ細かなサービスをご提供できるよう一層の努力をしております。

私たちは、日本の漆喰トップカンパニー、漆喰の先導者として、お住まいになれる皆様に「漆喰の壁って本当にいい」と思っていただけの輪を、今後も愚直に広げてまいります。

令和7年・2025年が皆様にとりまして、素敵な一年になれることを心よりご祈念申し上げます。本年もどうぞよろしく
お願いいたします。

深謝

令和七年（二〇二五年）二月一日

日本ブラスター株式会社 代表取締役 奥山浩司

土蔵再生

家財を火災やカビから守る術として、実用を兼ね発展した建築様式である「蔵」。
かつては珍しくなかった蔵のある風景も、
今ではその多くが取り壊しか保存かを考えるタイミングを迎えています。
土と漆喰を用いた「蔵」の今に、漆喰屋としてどう向き合うか。
今回は、ある土蔵と私たちの取り組みについてご紹介します。

震災をも耐えてきた
築百五十年の蔵。

「自宅の蔵を直すべきか、取り壊すか
悩んでいる」

夏の終わりのある日、そんなご相談を
いただきました。聞けば、ご自宅の庭に
ある築百五十年の蔵が傷んでしまっ
ているとのこと。

壁の剥がれ落ちた蔵を見ては飛び
込みのリフォーム業者がやってきて、
高額な補修工事を勧められ、自分たちで
業者を探そうにも左官の数が少なく、
どうしたものかと悩んでいたところ、
知人から当社しつこい工事を紹介され
たそうです。

この時点で蔵は物置として使われて
おり、「壊してしまってもいいのでは」
という思いも少なからずあったそう
です。しかし、「今まであったものだから、
できれば残したい」というお施主様の
思いに突き動かされ、漆喰屋として



壁の左側にはお父様がDIYで補修をした跡が。



実は漆喰の下で壁全面に剥離が進んでいた2階壁。



観音扉や鬼瓦にも欠損やDIYの跡が見られます。



今回は元の状態を極力生かし、再生することに。



風雨や地震に耐えた棟。



目に見えない剥離がないか状態を確認。



漆喰が落ちて土壁が剥き出しに。

しかし、それ以上に私たちが心を打たれたのは、この蔵に残されたご家族の想いでした。蔵には先述の破損箇所の他に、過去に補修した跡が随所に見られました。お施主様のお父様が手先の器用な方で、不具合があれば、自らDIYで補修し、蔵を存続させてきたのだそうです。この素晴らしい日本の伝統建築を残し、大切に守ってきた先代の想いを受け継ぐために。私たちは左官の技術のみで、蔵の再生に挑戦することを決意しました。

実際に蔵を拝見すると、確かに一部の壁が剥がれ、やや傾きも見られました。壁がしっかり残っているように見える場所も、打診すると全体が剥がれているような部分もあります。しかし、この蔵は14年前の東北地方太平洋沖地震を耐え、近年大型化する台風にも耐えており、日本の伝統建築の偉大さには感心しきりでした。

先代の想いを受けて
左官技術で再生に挑む。

私たちにできることがあるのではないかと、左官社員と施工管理技士を伴い、現場へ向かいました。

直したいけど人がいない
悩ましい現状に光

奥山：この度は土蔵改修のご用命を賜りありがとうございます。完成し、足場も取れましたがいかがですか？

奥様：スッキリしましたね。

旦那様：あんなに綺麗になっちゃうんだなあって。以前がボロボロだったから（笑）。

奥様：本当に、これはもう直しようがないのかなって。補修をやってくださる方を見つからないし、正直、半分諦めていて「壊してもいいかな」って気持ちになっていました。だけど、ここはずっとあったものが無くなるっていうのは、何か寂しいなって。直せたら直したいなって思いがずっとあったのよね。

旦那様：だいぶ長いこと工事をやってくれる方を探していて。ある町で大々

的に蔵を直したという話を聞いて、その町の役所まで話を聞きに行ったこともありますが、直しはしたけど、左官の棟梁は新潟の方から呼んだとかで、はつきりとしたことが分からなくて。地元的设计事務所の方にも紹介してもらおうと思ったけど、これもまたはつきりしない……。その頃に、古くからの知人と飲んで「漆喰を直す人を探しているんだけど、誰か知らないかな」なんて話をしたら、その知人が御社を教えてください。

奥様：本当に意外なところに縁がありましたよね。でも、その方は御社を漆喰を作っている会社だと思っていました。

奥山：そうでしたね。最初のお問い合わせでは「漆喰を施工できる業者を紹介してほしい」ってお話だったので、いえいえ当社で漆喰工事ができますよと（笑）。確かに、96年漆喰を作り続けているのですが、しつこい工事を事業として

本格的に始めてから6年ですので、知らなかったのかもしれないね。

ちりひとつも残さない
見事な仕事ぶりに感動

奥山：それまで細々とやっていた、しつこい工事ですが、今回施工を担当した江端を中心に、6年前に工事を立ち上げました。新卒の学生も採用して育成し現在に至っています。

奥様：そうでしたか。確かに、お若い方もたくさんいらしてましたね。女性もいらして、すごく楽しかった。私も生まれ変わったら職人になって思っているので（笑）。
奥山：今回の補修工事について申しますと、実際に蔵の補修をしたことのある施工担当の江端がいて、後進も育てているということでお受けしたのです

が、本人はとても緊張しておりました。
奥様：あら、毎日とても穏やかでしたよね、いつも気持ちよく挨拶してくださって、とても良い方でした。

旦那様：仕事を終えた後の整理整頓がきっちりしていましたよね。水を使っているはずなのに、排水が捨てられている感じがなくてどうしているのだろうって。

奥山：「立つ鳥跡を濁さず」と言うように、当社ではすべて「捨てない・持ち帰る」ということを基本としています。

奥様：うちもこういう家ですから、これまでもいろいろな職人さんに会ってきましたけど、本当に様々ですよ。やりっぱなしで帰ったり、カンナの削りカスまで置いて帰るような人もいますよ。

旦那様：今までの職人さんの中では、ピカイチにきちんとされていますね。なかなかいなかったよね、あんな人は。

奥様：本当に。ゴミひとつ、チリひとつ残ってなかったものね。あそこまできれいにされている人は本当に珍しいですよ。

漆喰文化を担う、人の手と心様。

お話し：施主K様ご夫妻

聞き手：代表取締役 奥山浩司

工事：修復

材料：漆喰くるむ外鍍押さえ・カルヌーヴォー
特注色 黒ほか

工期：2024年10月～12月





BEFORE



AFTER

露出した土壁は見栄えはもちろん強度の低下にも。



下地を自社プライマーで強化し漆喰で平滑に。



BEFORE



AFTER

塗料が剥がれ、角の欠けた部分も見られます。



ネットで強化しつつ黒漆喰で角まで美しく。





劣化した壁は全て剥がし、下地から作り直し。完全に欠損した部分は、モルタルで形を再現しました。

実はお父様が白く塗っていた？ 家族の歴史も残す補修。

奥山：施工担当者が話していたのですが、補修を進めると、お父様がこの蔵に対して、様々な工夫をして手直していらった、その年月と年輪が全部見えるのだそうです。これはいつ頃にこんな修繕をしたのだろうか、ここは苦労しているのかな。そういう足跡を見れば見るほど、とにかく後世に残せるものを作らないといけないし、お父様が大切にしてきた思いを大事にしなければならぬと感じたと言っていました。

奥様：そんな風に言っていただけだとありがたいです。父はそういうことが好きな人だったから、ちよこちよこことそういうことをしていたのですが、この間妹が「お姉ちゃん、あの蔵は昔、全部



黒漆喰は施工直後に気温が低下すると白華が生じやすいため、押し寄せる寒波と闘うような気持ちで施工に取り組みました。

黒かったよ」って言い出して。確かに「なぜここが黒いのかな？」と思うところはありましたが、元々全部黒だったと分かってなるほど、と。どうやら、父がちよこちよこ塗りながら白くしちゃうみたいなんです（笑）。でも、改めて見ると、白い壁に黒のアクセントが入って、なんだかモダンだなんて思いますね。

奥山：そうでしたか。今回色については補修前の姿をそのまま復元しています。左官の仕事というのは天気に左右されるのですが、特に今回は黒漆喰を仕上げるタイミングで寒気が押し寄せてきたこともあり、左官社員はかなり緊張感を持って作業をしていましたので、無事に終わりほっとしています。

奥様：おかげさまで良くなって。施工の最後の日はまだ足場があつて全体が見られなかったのですが、こちらに来ることがあれば、ぜひ完成した姿を見にきてください。





施工担当
一級左官技能士・
登録左官基幹技能者
工事部 江端 理

初めて蔵を拝見したときは思っていたより傷みが進んでいたもので、実は少し不安でした。しかし、お施主様がこの蔵を解体しようか、直そうかと悩んでいるタイミングで当社に辿り着いたのもご縁だと思ひ、今の自分にできる最大限のことをしようと決意しました。

建物は長きにわたり傷み、朽ちて、傾きもあり、これらを全て復元しながら工事をすることは大変でした。また、下地の土が簡単に崩れてしまう脆さにも苦労しました。正直、気に入らず何回も塗り替えたところもあります。そうこうしているうちに季節が変わり、屋外で行う漆喰工事には厳しい環境になっていました。

苦労話をすればキリが無いですが、完成した最後の日は、緊張から解放され、やり切ったという思いが強かったです。お引き渡しが済み、お施主様のお言葉を聞いた時は、この蔵の工事をすることができて良かったと思ひました。日本プラスターのあらゆる材料を使い、仕上げられたことを、とても誇りに思ひます。

はじめてのDIY



DIY未経験の方やコテを初めて触るという方にとって、お住まいの壁を自分で塗るというのは、ちょっぴり勇気がいること。そこで今回のレポートでは、漆喰を初めて塗ったよ!という方に、実際難しかった? 塗ってみてどうだった? と、お話を伺いました。

憧れのベンガラで彩った書斎



第二の人生を考え、奈良県奈良市に移住されて新築のお住まいを建てられた圓尾様ご夫妻。
今回、ご自分の書斎をDIYされた奥様にお話を伺いました。

自分の部屋を「奈良」なじみの色に

新築の家を建てる時、自分の部屋(書斎)だけは自分の憧れの色にしたいと思いました。奈良にかかる枕詞「あをによし(青丹吉)」「に(丹)」に当たる朱色、つまりベンガラで彩りたい、それが念願でした。そう思っていた頃に、友人から「漆喰うま〜くヌレールを塗ったら、とても良かった!」という評判を聞きまして、それがきっかけで、漆喰うま〜くヌレールの「ベンガラ」に出会いました。「憧れの色を自分で塗れるなんて夢みたい」と思い、知って即買いしました。ベンガラの色はチューブタイプしかないので、10本以上まとめ買いしてDIYしましたよ。



DIY教室で体験後、自分でできる!と確信

最初は自分で塗れるか心配だったので、塗る前に上野の「うま〜くヌレールLABO 東京」(東京都台東区)で塗り方を教えてもらいました。そこで塗ってみて「これは自分でできる!」と確信したので、初心者ながら、憧れのベンガラ色の漆喰を書斎の一面に塗りました。新築を建てる時に、大工さんに漆喰で塗る部分だけ壁を仕上げてもらわないように頼んで、石膏ボードの上から自分で漆喰を塗りました。塗ってみたら自分でも思った以上の出来栄えて、お気に入りの「あをによし」のお部屋になりました。ちよつと塗りムラはあるけれど、それがかえって良い表情になっていて、全然難しくなかったですね。簡単にできました。



圓尾様

施工情報

- 使用色 漆喰うま〜くヌレールベンガラ
- 使用量 チューブタイプ 10本以上
- 施工場所 書斎
- 施工人数 1名

編集担当より

「ベンガラの漆喰は発色を均一にするのが本当に難しく、少量しか生産することができません。チューブタイプしかない中、そのお手間を厭わず、美しいベンガラ色の漆喰壁をおつくりいただき、誠にありがとうございました。」

明るく変化した思い出の和室

Case 2

福岡県福岡市在住 K様。ご両親が住んでいたという築40年のお住まい。
思い出の家をご親戚皆さんで仕上げられました。

塗り方動画で予習

この家は定期的に風通しをして、今は年に数回家族親戚が集まる場になっています。でもいつの間にか2階の砂壁に茶色のカビが生えてしまい、ひび割れや穴も複数あり、どうにかしたいと思っていました。そんな時に漆喰を自分たちで塗れると知って、今回挑戦してみました。事前に実演会やDIY教室で塗り方を教わりたくいと

適当に塗ってもいい感じ

思い出したが、場所が遠かったり、タイミングが合わなかったため、公式サイトに載っていた塗り方動画を見て予習しました。事前の準備や手順がよくわかったので不安はなかったです。塗る日までに壁のカビ取りをして、当日は養生から始めました。

今回、連休で家族親戚が集まることができて、多い時は

9名で塗りました。皆で集まって楽しくワイワイしながら、実家を塗ることができたのは良かったですね。2階の廊下と6畳の和室の壁すべてを塗りまして、広めの面積でしたが、養生から片付けまで1日半で終わりました。最初は皆コテの使い方もぎこちなかったのですが、結構すぐに慣れていきました。適当に塗ってもいい感じの壁に仕上がって、出来栄には満足しています。ひび割れや穴も、動画にあった手順で対処したら、すっかり綺麗になって、どこにひびや穴があったのかわからなくなりました。

翌朝の結露の違いに驚き

完成後に驚いたのは、結露の量の違いですね。漆喰壁が完成した翌朝、気温が低くて、同じ2階で壁紙を貼っている部屋は、窓に結露がたくさん出て水滴が窓サッシに滴り落ちていたのですが、漆喰を塗った和室や廊下の窓はうっすらとだけで、水滴も垂れておらず、同じ2階の部屋なのに壁が違うだけでこんなに違うのか！と、塗って早々に

漆喰の調湿効果を実感しました。あと、お部屋が明るくなりました！昼も、夜に電気をつけた時も、以前より明るいですね。

実感した養生の大切さ

ちょっと後悔したのは養生ですね。きちんと養生したのですが、ゴム手袋についた漆喰が、塗る間に柱などに付いてしまったりして、もっと広めに養生しておけば良かったなと思えました。塗りながら養生の大切さを実感しました。でも綺麗に仕上がって、皆で楽しく塗ることができて、とても満足しています。今度は1階の壁を塗りたいですね！



施工情報

- 使用色 漆喰うま〜くヌールさくら色
- 使用量 18kg 4缶、5kg 2缶
- 施工場所 2階廊下、和室
- 施工人数 5〜9名

編集担当より

「さくら色は和室にも洋室にも合う優しい色です。ご親戚皆さんで素敵に仕上げてくださいね。誠にありがとうございます。」

2024年11月。東京と兵庫にて、漆喰うま〜くヌレールのファンイベントを開催。

当日は実際に漆喰DIYを経験された方々にもご協力をいただき、漆喰うま〜くヌレールの扱いやすさや美しさ、機能性などをお伝える、正に漆喰ファンによる漆喰を楽しむイベントとなりました。

小さなお子でも楽しめる色を楽しむアートボード作り。



農家のジェラートカフェ たね匙

「漆喰と暮らそう」の前身「ずっと、もっと、しっくい!」vol.7に登場。スモーキーブラウンを基調とした店内は、家族みんなで漆喰を塗りました。ご夫婦で育てた旬の青果を使ったジェラートが絶品です!



兵庫県姫路市にある、築100年を超える古民家をリフォームした「農家のジェラートカフェたね匙」店内にて、3色の漆喰を塗り重ねて作るアートボード作りを楽しむ参加者の皆さん。ワークショップの後には美味しいジェラートをいただきながら、漆喰やお住まいについて話しました。

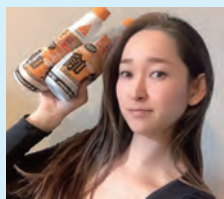
参加者の声

- 子どもでも手軽に使えることがよくわかりました。どんな風に塗っても味がでて、おしゃれになるのでいいと思います。
- 漆喰うま〜くヌレールを知って、家にも塗ってみたいと思いました。たね匙さんのジェラート最高においしくて、店舗の雰囲気も最高です。



漆喰うま〜くヌレール

豊富なカラーバリエーションで実現。漆喰で描く世界にひとつだけの花。



MOMOCO

「漆喰と暮らそう」vol.03に登場。磨き上げられた色彩感覚で見る人を魅了するアーティスト。漆喰うま〜くヌレールを用いた立体的な漆喰アートも人気。



INE COFFEE GALLERY

昭和の snacks をリノベーションした、浅草の隠れ家的カフェ。香り高いハンドドリップコーヒーと、手作りスイーツで世界中のお客様をおもてなししています。



東京都上野のLABO東京では、アーティストのMOMOCO先生を講師にお迎えし、漆喰で花を描くワークショップを開催。ペインティングナイフで、思い思いの花を咲かせたあとは、「INE COFFEE GALLERY」のスペシャルティコーヒーとスイーツを堪能し、漆喰DIY談議に花を咲かせました。

参加者の声

- 短時間で楽しく、実際にお部屋に飾れるアートができて大満足です。漆喰の機能性にも凄く惹かれます。ありがとうございました!



漆喰うま〜くヌレール



SHIKKUI FAN MAP

漆喰散歩 -特別編- *Special Edition*



鉄と漆喰のマリアージュ

刀鍛冶で有名な岐阜県関市で、60年以上鉄製品を作り続けている「杉山製作所」。
スタイリッシュで独自性に溢れた鉄家具を中心に、多くのアイアン製品を世に送り出している同社。
工場に併設されたショールームは、漆喰うま〜くヌレールでDIYをしたそうです。
今回は漆喰散歩特別編として、実際に漆喰を塗った代表取締役 島田亜由美様にお話を伺いました。

株式会社杉山製作所

1962年創業。長年培った鉄の加工・溶接技術を活かし、2011年に鉄板のテーブルを発表。以来、数々の家具を作り鉄家具という市場を確立。「鉄の可能性」を企業理念に、枠にとらわれない柔軟な発想で鉄の未来を創り続けている。

<https://kebin.jp>

ファクトリーショップ・ショールーム「鉄家具と暮らす」

住所 岐阜県関市旭ヶ丘3-13
営業日 月・水・木・金・毎月第2土日
営業時間 10:00~17:00



代表取締役 島田亜由美様

時代と共に変化する鉄の可能性を信じて。

会社の創業当初は自動車部品などの溶接加工業を行っていました。ところがバブル崩壊後に状況が変わってしまい、自動車部品の製造が海外に流れてしまったのです。その状況を切り抜けるため、店舗の陳列棚などの什器製造に舵を切り、2000年には店舗什器のオリジナルブランド「KEBORN」を立ち上げました。鉄家具を作り始めたのは、そこから更に10年後のことになります。

自動車部品の製造から、什器や家具の製造という大きな変化と感じるかもしれませんが、やっていることは実は一筋です。製造の現場でやっていることは、鉄の溶接や曲げ

加工ですから、技術はそのままで作るものが変わったという感じですね。ただひとつ違うのは、自動車部品は量産製品で、バブル景気の頃からは溶接をロボットが行っていたので、手作業で調整している今はむしろ少し逆戻りしていますね(笑)。でも、工場長をはじめ社歴の長い人たちは、もともと手作業で溶接をしていた人たちなので、やらないという抵抗はあまりなく、逆に楽しんでくれたというか、なんとかやってみようって感じ。まずはベテランの人たちで作り、軌道に乗ってきたら新しいメンバーを採用して増員し広げていきました。

工場の一部をショールームに。鉄と漆喰は相性がいい。

このショールームは天井を見ていただければ分かると思うのですが、元々はここまで工場でした。ところが、車の部品製造を止めたことで、広いスペースが不要になってしまっています。そこで、工場の一部にギャラリを設けたのが、このショールームの始まりです。そこから徐々に壁を作ったりして今の形になるのですが、資金に余裕もない状態でしたから、なんとかして費用を抑えたい。そこで、自分たちで何かできないかなと考えて、漆喰うま〜くヌレールを自分たちで塗ることにしました。

そんな訳で、最初はコストカットのつもりで漆喰を塗りはじめたのですが、いざ出来上がると、製品がとても良い感じに見えることに気づきました。これがクロスだとなんだかしくりこないのですよ。自分たちで塗ったから壁の表面は粗い感じなのですが、

逆にそれがうちの製品に似合っていて、むしろこの粗さが格好良くて、お客さんからの評判も良かったですね。

漆喰うま〜くヌレールは扱いやすく、養生して塗るだけだから本当に簡単で、気軽にできるのがいいところだなと思います。ショールームは毎年模様替えをしているのですが、毎回、壁は全部自分たちで塗っています、その方が圧倒的に製品が格好良く見えるので。

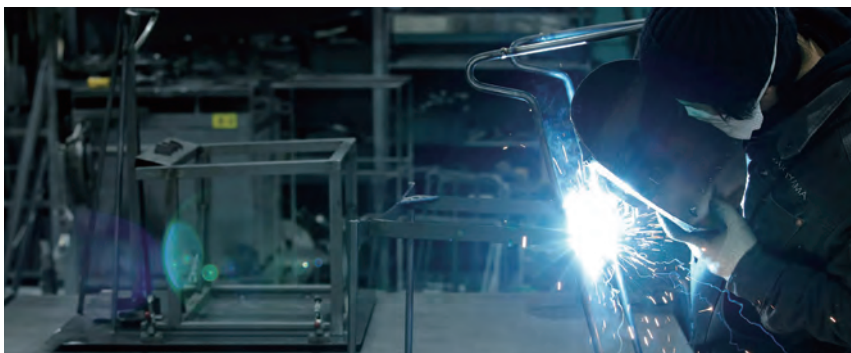
当社のウォールデコという壁掛けは、質感のある壁と組み合わせるとより素敵に見えるのですが、おそらく素材の組み合わせとして、漆喰はベストなんじゃないかなって思いますね。ショールームを見たお客さんが「やっぱり漆喰にしようかな」なんて、話されることもありますよ。



工場の一角だったことを思わせる天井。



質感のある漆喰壁に落ちる影まで美しいウォールデコ。





ショールーム一階にある展示スペースでは、歴代の鉄の椅子が一堂に会する。展示場の壁はスモーキーブラウンでDIY。

こだわりながら柔軟に、 チャレンジを続ける。

ここ10年ほどは椅子の開発に力を入れています。実を言うと、それまで椅子は一切作ってきませんでした。それは私の経験上、家具の中で椅子の製作が一番難しいってことを知っていたからです。うちは鉄工所であって家具メーカーではありませんから。しかし、鉄家具作りを続けて、うちの技術が椅子作りを学べるレベルまで成長したのではないかと、そんな気持ちになったので、知り合いの椅子のデザイナーさんをお願いをして、椅子の製作にチャレンジしました。

鉄の椅子と聞くと座りにくいイメージがあると思いますが、鉄という素材そのものを変えることはできません。そうなると鉄の形状や太さを検討し、あとは職人さんによる曲げの角度で調整することになります。まさに職人さんの手にかかっている、何回も試作を重ねて、最初の一目目ができた時はみんなとても喜んでいましたね。

最近海外のインテリアの展示会に出展しています。世界のプロにどう評価されるかを知るためのチャレンジです。チャレンジをすれば、新たな課題が出てきますよね。そうしたら、それに向けてまた取り組んでいく。それが大切だと私は思います。何が良いかわからない時代ですから、終わりを決めるのではなく、常に挑戦し続け、変わっていくことを躊躇しないことが大切ですね。



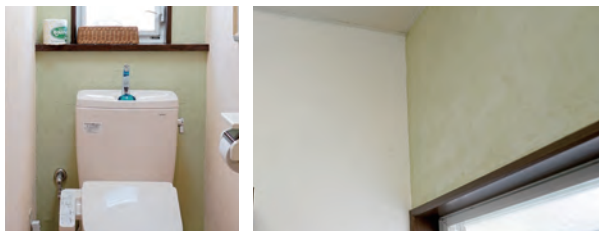
SHIKKUI FAN MAP

漆喰散歩

漆喰ファンによる、漆喰空間を楽しむ(fun)コーナー。
 毎号漆喰空間が心地よいお店をご紹介します。
 今度の休日にちょっとそこまで足を伸ばしてみませんか？

千葉県千葉市【一心堂療術整体院】

vol.5



ホームセンターにある色見本を参考に決めたという配色。トイレは若草色とオレンジ色、更衣室は白と若草色のメリハリある2色使い。

「一心堂療術整体院」は、この道30年の確かな技術で、痛みの根本改善を得意とする整体院。施術所は院長である荒谷様のお母様が住んでいた住居を、院長自らリフォームしました。

「もともと漆喰に興味があったのですが、ある日、ホームセンターで漆喰うま〜くヌレールの実演会を見ました。製品についてとても丁寧に教えてもらったので、よし、自分でやってみよう」と（荒谷様）。

快適と癒しで満ちた空間で
 痛みを取り除き、心からほぐされる。

施工前にはDIY教室にも参加し、イメージを膨らませて、いざ施工開始。仕事の合間を縫って一人でコツコツと塗り進めました。

「施工中も分からないことがあったら、フリーダイヤルに電話をかけて、何回も相談に乗ってもらいました」（荒谷様）

こうして完成した施術所は、澄んだ空気に満たされ、心からもほぐされるような、癒し空間に仕上がっています。



一心堂療術整体院

千葉県千葉市緑区大膳野町4-747

営業時間

火曜日を除く月〜土 10:00〜19:00

火曜日 10:00〜11:30

定休日 日曜日

お問い合わせ 043-379-9574

院長の
 荒谷様



痛みの原因部位を整えることで痛みを改善する「全身整体術」で、根本から悩みを解決します。

ここが
 自慢の壁



オレンジ色で塗られた施術室。窓からの光を受けると優しい光で満たされます。

「漆喰散歩」では、漆喰うま〜くヌレールでDIYをしたお店や施設を募集中です!!
 ご提供いただいた情報は、本誌の他、SNS、公式サイトにてご紹介させていただきます。
 掲載ご希望の方は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。



発行

日本プラスター株式会社

<https://www.plastesia.com>

「漆喰と暮らそう」についてのご意見・ご感想をお聞かせください▼

E-mail: info@plastesia.com

日本プラスター株式会社
 WEBサイト



漆喰スタイル
 WEBサイト



漆喰うま〜くヌレール
 WEBサイト



漆喰うま〜くヌレール
 Instagram



本社・工場

〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
 TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

・SHIKKUI Design STUDIO - TOKYO -
 ・埼玉事業所 ・西日本営業所